

会 議 録

1 会議名

第1回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）平成30年度地域活動支援事業審査日程等について

（2）自主的審議事項「大潟区の魅力発見・発信」について

・その他（公開）

3 開催日時

平成30年4月24日（火）午後6時30分から午後8時30分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：佐藤忠治（会長）、君波豊（副会長）、梅木英亮、金澤幸彦、後藤紀一、佐藤博之、内藤恒、中嶋浩、西田耕一、細井義久、柳澤周治、山田幸作、山本宏（16人中13人出席）

・事務局：鍵田大潟区総合事務所長、佐々木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平山市民生活・福祉グループ長、石川教育・文化グループ長、朝日総務・地域振興グループ班長、水澤総務・地域振興グループ主任

8 発言の内容（要旨）

【佐々木次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

・挨拶

【鍵田所長】

・挨拶

【佐々木次長】

・会議録の確認：西田耕一委員に依頼

では、会議を始める。会長及び副会長の選任についてであるが、新しい会長、副会長が決定するまで鍵田所長が進行を行う。

【鍵田所長】

しばらくの間、進行を行う。選任方法について自薦、他薦とあるがいかがか。意見はあるか。

【柳澤周治委員】

まずは自薦でやってみたいという人が名乗りを上げてはどうか。

【鍵田所長】

今ほど柳澤委員から自薦を募ると提案があったがいかがか。

(一同異議なし)

それでは、自薦があれば発言をいただきたい。

発言が無いようなので他薦で行う。意見はあるか。

【柳澤周治委員】

佐藤会長と君波副会長が引き続き行いたいということであれば推薦する。

【鍵田所長】

柳澤委員から佐藤会長と君波副会長の意思を確認したいという意見であるがどうか。

(一同異議なし)

【内藤恒委員】

2人ともやる気があれば再任する方向でどうか。

【鍵田所長】

柳澤委員と同様な意見ということで良いか。他の委員も同様であるか。

(一同異議なし)

では、佐藤会長いかがか。

【佐藤忠治会長】

体調を崩していたときは年齢的なものもあり、いかがなものかと考えていた。地域協議会のほかに行事の出席もあり負担が大きい。会議の進行についても不慣れであり難しいと感じた。しかし、皆さんがよければ引き続きやっていきたいと考えている。大湊区の魅力発見・発信について成果を見るまで携わっていきたい。大湊区連絡会議についても良い関係を作りつつあるため、引き続き関わっていきたいと考える。

【鍵田所長】

今ほど佐藤会長より続投宣言が出されたが、異議がなければ拍手をお願いします。

(拍手多数)

では、後期2年間引き続き佐藤会長をお願いします。では続いて君波副会長はどうか。

【君波豊副会長】

会長がやるということであれば、引き続き務めさせていただく。

【鍵田所長】

では、拍手で承認をお願いします。

(一同拍手)

では、後期2年間君波副会長が続投する。

【佐々木次長】

では、協議事項に入る。進行は、佐藤会長が務める。

【佐藤忠治会長】

それでは、4. 協議事項(1)平成30年度地域活動支援事業審査日程等について、総合事務所に説明を求める。

【水澤主任】

(資料No.1に基づき説明)

【佐藤忠治会長】

質問や意見はないか。

【柳澤周治委員】

正式な提案に至る可能性としてはどれくらいあるのか。

【水澤主任】

今、話が出ているものに関しては事業提案がされると考えている。

【柳澤周治委員】

金額はどうか。

【水澤主任】

わかる範囲では3事業40万円程度である。

【柳澤周治委員】

710万円の総額のうちどれくらいが見込まれるのか聞きたい。

【鍵田所長】

5割程度である。

【君波豊副会長】

大潟の子どもを育てる会の総会が昨日あり、事業計画の中に地域活動支援事業で対応したいという案件が2件あった。総会が終了したので提案が出てくるのではないか。

【佐藤忠治会長】

まちづくり大潟も総会終了後に提出されるのではないか。新しい団体の相談はあるか。

【水澤主任】

2団体である。

【内藤恒委員】

前年同期でどれくらいあったのか。前年と同じ案件の申請もあるのではないか。その辺で見通しというのはわからないか。

【朝日班長】

前年は14件あった。防災士会の事業が不採択となった。前年からの継続の案件については2団体2事業ある。去年は提案されなかったが過去に提案し採択された事業で再度提案したいという事業もある。

【佐藤忠治会長】

継続して提案する事業は「火防地蔵の整備」がもう1年ということか。小学校後援会は去年で終わりか。

【朝日班長】

そうである。

【佐藤忠治会長】

ほかに意見はないか。日程についてはどうか。5月17日の勉強会で内容を確認して

提案者への質問をまとめる。それをもとに提案者へ質問書を送付する。その後、プレゼンテーションを実施し、そこで質問に答えてもらうことになる。

【後藤紀一委員】

この日程で良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

では、よろしいか。

(一同了承)

ではこの日程で決定する。

次に、協議事項2番目に移る。自主的審議事項「大潟区の魅力発見・発信について」だが、前回の協議会でグループ協議の結果を報告してもらったうえで事業の実施主体、今後のスケジュールについて協議した。

実施主体については、まちづくり大潟など既存組織、あるいは新しい組織などの意見が出された。また、今後のスケジュールについても今年度の地域活動支援事業に申請するという案、今年度は準備期間とし平成31年度に地域活動支援事業に申請し、平成31年度末か32年度末に完成という意見も出た。検討会を4月12日に開催した結果、「実施主体を正式にまちづくり大潟に依頼をしてはどうか、本年度の地域活動支援事業を活用し映像化を行う。事業期間は平成30年度と31年度の原則2か年とする。」という申し合わせをした。

その結果を踏まえて4月20日に大潟区連絡会議を開催し、次のことを決定した。1番目は映像化、資料化については地域活動支援事業を活用する。2番目は地域活動支援事業の提案団体はまちづくり大潟に依頼し、地域協議会のメンバーは企画等の事業実務に積極的に取り組む。3番目として事業期間は平成30年度と31年度の原則2か年とする。以上のことを合意した。

また、事務局が町史などから抜粋したり、委員の皆さんの意見を資料としてまとめたもらった「伝えていきたいもの」の資料化について今後どうするか協議していきたい。

本日は検討会の結果と、大潟区連絡会議の結果について意見をお聞きし、承認をいただきたい。事業主体についてはいろいろな意見が出ていたが、今までの実績を考えてまちづくり大潟に依頼することが現実的ではないかということに至った。まちづくり大潟としては正式に依頼されれば受けざるを得ないが、役員会に諮り決定するとのことであ

る。町内会長協議会は地域協議会が熱心に行ってきたことであるのでぜひ実現してほしいとのことである。後藤委員、意見はないか。

【後藤紀一委員】

まちづくり大潟が事業主体となっても、地域協議会との関わりをはっきりさせておかないといけない。

【佐藤忠治会長】

以前、私や後藤委員から意見が出たが、地域を元気にするために必要な提案事業を利用すると、来年度の予算案のころに提案しなければならず、決定は3月末になり半年が無駄になってしまう。またそれが認められるかが非常に難しい。その点では地域活動支援事業に提案してもらうことが現実的である。まちづくり大潟の熊木会長は、マンパワーが足りないため地域協議会の委員からも協力していただかなくては実現できないとのことである。では、実施主体、期間、映像化、実施主体に地域協議会のメンバーも協力するということが良いか。

(一同了承)

では決定する。事務局から業者に見積もりを依頼してもらったという経過があるため報告をいただく。

【朝日班長】

(資料について補足説明)

【君波豊副会長】

柿崎区でドローンを飛ばして撮影した費用を確認したところ、約10万円であった。業者は南本町にある会社である。また、牧区においてプロモーションビデオを作製しており牧の商工会に確認した。約13分の映像であり、新潟の業者に依頼し150万円ほどかかったということである。業者が新潟市であり交通費等もかかり高額となった。上越市創造行政研究所から紹介された牧野さん、フジノさんについては、事務局から情報を収集してもらっている。大潟商工会の青年部にも受け皿になってもらいたいと概要を説明した。商工会事務局長は「大変素晴らしいことである」という考えであるが、商工会青年部は15名程であり、確認してもらったがやはり難しいという返事をいただいた。実際に動くプロジェクトチームに1、2名の協力を得られるかの質問には、検討の余地があるという返事であった。観光協会にも入ってもらってはどうかというアドバイスを

いただいたが、まだ観光協会とは接触していない。概要を説明し、観光協会にも入っていただければと思う。また、上越タイムスの紹介記事を見た方もいると思うが、糸魚川市で観光用の映像作成をしたものを実際に見てきたが、素晴らしいものであった。そのプロジェクトメンバーに会って話を聞くことができ、今後相談に乗ってくれるとのことであった。他にもそういった団体があれば情報収集をして頂きたい。

映像化に主力をおき議論してきたが、事務局よりまとめてもらった「残したいもの、伝えたいもの」の資料化をどうするかについても検討してもらいたいと思う。

【佐藤忠治会長】

今ほどの説明で質問、意見はないか。

【後藤紀一委員】

平成30年度地域活動支援事業の申請について、2次募集の段階で申請をしたいという説明であった。今の段階で予算額に達する見込みがないための意見と考えるが、予算額に達する可能性もあるのではないか。

【朝日班長】

事前相談などがあった団体の予定額の合計は、大潟区配分額の半額まで達しないという見込みであり、仮に高額の事案が出てきたときに改めて、今後のスケジュールについて協議していただくのがよいのではないか。

【中嶋浩委員】

一昨年は1回目の募集は半額であった。会長から各団体に働き掛けていただきたいという話があったことを鮮明に覚えている。昨年は追加募集をしなくてよいくらい提案が出された。一昨年の反省が結果に表れたと思う。お互いに良い形で提案を出して、予算を奪い合って審査をするというのが本来の形ではないか。

【柳澤周治委員】

まちづくり大潟が提案団体になったとしても、平成30年度には何をするのかまとめるだけでもかなりの時間がかかる。物理的に間に合わないので追加募集での申請もやむを得ないと考える。仮に追加募集で提案団体が多く、予算枠が足りなくなった場合は、平成30年度は企画立案の事業を展開し、予算不足となれば、その分を平成31年度に延ばすということで良いのではないか。他の団体の事業と調整し、こちらを優先するということはまちづくりの活性化の意味からして議論しない方がよい。

例えば、予算が100万円に満たない金額であれば、まちづくり大潟の支援事業の助成金を使いながら、予算の範囲で事業の企画立案を行えば良いのではないかと。基本は任期中の実現であるが、間に合わなければ平成32年度にずれ込んでも仕方ないのではないかと。まずは追加募集で提案するために地域協議会委員が入って企画立案を急ぐべきと考える。君波副会長が言われたプロジェクトチームの結成は言っている意味が分からないが、地域協議会の委員が積み上げてきたものをベースに、地域づくりの視点で映像化の実績がある牧野さん、フジノさんのアドバイスは受けたほうがよい。

我々の構想を示しながら、彼らの視点でどういう映像を作るか、どこをポイントにするかというものをすり合わせてベースを作る。長くても15分、20分の映像である。作成したベースで専門家に意見をもらうということであればよいが、プロジェクトチームで企画立案を行うということはまた振り出しに戻るのではないかと。商工会、観光協会はどうせ作るならこうしてほしいということになることが想定される。

あくまでも地域協議会が提起して、地域協議会の委員が考えられることをし、専門家に意見を聞いて整理していく。その中で各専門団体の意見を聞く。ベースを直すのではなくインパクトをつける等の話にとどめるプロジェクトなら良いが、そうでなければ私は抜けさせていただきたい。時間がかかり過ぎる。

【金澤幸彦委員】

柳澤委員の意見について、私も心配している。平成30年度、31年度ということで決定し、まちづくり大潟に依頼するというで決定した。ここでプロジェクトチーム云々の話となると体裁だけというわけにはいかない。そうするといろいろな意見が出て、元に戻るという事態が発生するかもしれない。今年の追加募集で申請し、実行に移るとなると間に合うのか。ここまで来たら決めたベースで土台を決めて、後は細かいテクニックの相談をするのがよいのではないかと。そこを今日しっかり決めないといけない。

【君波豊副会長】

プロジェクトチームはそういう意味ではない。まちづくり大潟との打合せの中で丸投げでは困るという話であった。丸投げしないために、形は未定だがチームを作らないといけない。主体は我々が作った骨子であり、そこから提案書をまとめる。専門家を呼び、どういう形にするか我々で絞り込んでいかななくてはならない。それをチームの中に反映し、予算取得のための提案書を作っていく。プロジェクトチームといったことに語弊が

あった。

【金澤幸彦委員】

ここまで来たら、地域協議会委員の関わり方をはっきりしたほうがよいのではないか。地域協議会としてまちづくり大潟と関わっていくのか。あるいは別の団体を含めてチームを作って進めていくのかを決めないといけない。

【佐藤忠治会長】

まちづくり大潟に依頼するため、まちづくり大潟と話し合いをしなくてはならない。

【金澤幸彦委員】

早急に話し合いをしなくては、いつまでたっても前に進まない。

【佐藤忠治会長】

先日の大潟区連絡会議では、必要に応じて必要な団体を呼び、意見を聞いた方がよいのではないかという意見が出た。

【柳澤周治委員】

まちづくり大潟は丸投げされては困ると言っているだけである。地域協議会委員がまちづくり大潟に入り、チームとして具体的なものを作って、専門家を交えて案を作ればよい。各種団体がどうのという話ではなく、まちづくり大潟に入って活動するということを確認すればよいのではないか。

【佐藤忠治会長】

大潟区連絡会議でもその方向でという話であった。ただ、まちづくり大潟の中では地域協議会からまだ正式に依頼されていないという認識なので、地域協議会で責任をもって依頼したい。

【柳澤周治委員】

まちづくり大潟の四役会議では、地域協議会から話があったと聞いた。ただ、最終的には総会の中で新たな事業として報告しなければならないので、四役会議で確認してほしいとのことであった。まちづくり大潟としては、正式に依頼されているという認識はある。

【後藤紀一委員】

地域協議会としてはどうするかということを確認してもらいたい。

【佐藤忠治会長】

地域協議会の中で誰が入るかは別として責任をもって事業を進める。地域協議会が今まで作ってきた構想をベースにしていきたいと思う。

【柳澤周治委員】

ベースという話でなく、地域協議会委員が積極的に関わり、丸投げはしないということを確認してもらえばよい。

【金澤幸彦委員】

地域協議会の基本的なスタンスが決まっていなければ、受けるまちづくり大潟も困る。

【柳澤周治委員】

資料にある地域協議会委員の関わり方については、積極的に関わるとすればいいのではないか。メンバーなどの具体的なことは後の話でよい。

【内藤恒委員】

地域協議会が主導権を持たなくてはならない。

【君波豊副会長】

地域協議会は実施主体になれない。そのため、まちづくり大潟に実施主体となってもらう。

【佐藤忠治会長】

では、積極的に関わるということで良いか。具体的に誰が入るかは会長、副会長、事務局に一任ということによろしいか。

(一同了承)

事務局からの資料の「大潟の残したいもの、伝えたいもの」を今後どうするか次回協議したい。

【西田耕一委員】

地域活動支援事業の提案についてだが、追加募集で提案するということか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【西田耕一委員】

追加募集までに間に合うのか。

【佐藤忠治会長】

業者に依頼して見積もりをしてもらう。

【西田耕一委員】

平成30年度分、31年度分に分けて、正確な見積もりが出るのか。

【佐藤忠治会長】

今年度は、企画と秋・冬の映像を撮る。次年度は、春・夏・秋の映像を撮る。

【西田耕一委員】

では、追加募集の予算はすべてこの事業に充てるということになるのか。

【朝日班長】

そういうことではなく、追加募集は公平にかける。

【西田耕一委員】

それならばよい。

【佐藤忠治会長】

では、この件はよろしいか。

(一同了承)

協議事項はこれで終わる。その他として総合事務所から平成30年度大湊区に係る主要事業について説明する。

【佐々木次長】

(資料について説明)

【佐藤忠治会長】

質問はないか。

【後藤紀一委員】

コミュニティプラザの大庇の雨漏りについて予算要求はしているのか。ガス水道局大湊区営業所の撤去工事が予算計上されているが、今後の土地の利用について聞かせていただきたい。

【佐々木次長】

大庇の修繕についてだが予算の計上はしていない。

【鍵田所長】

ガス水道局の件であるが建物については市の所有であるが、土地については市所有の

部分と民間所有の部分に分かれている。民間の土地の部分については建物の解体が終わった後に返還することになっている。

【後藤紀一委員】

所有割合はどれくらいか。

【鍵田所長】

資料が手元にないのでわからない。借地部分の面積がかなり広いと聞いている。

【後藤紀一委員】

庇の雨漏りについては必要性がないと考えているのか。

【鍵田所長】

錆も出ており、建築専門部署の職員が見て修繕の必要有りという見解で、予算要求したが、財政面で厳しく見送りとなった。引き続き要求していく。

【柳澤周治委員】

コミュニティプラザ整備費であるが、空調整備で9千万円計上されているが、どのあたりまで更新するのか。夕日の森維持管理・松くい虫対策であるが240万円減額となっているが、なぜ減額されているのか。現在の体操アリーナだが、維持管理運営費はなぜ増額となるのか。大潟区道路維持費について、町内会要望についてもなかなか進展しない部分があるが昨年並みということになるか。

【佐々木次長】

夕日の森維持管理・松くい虫対策の減額については松くい虫駆除の部分である。平成29年度に松くい虫が多く発生し、その処理費で200万円ほどかかった部分が減額となった。体操アリーナ管理運営の増額部分については下水道接続の費用である。道路維持費については昨年と同額である。

【鍵田所長】

コミュニティプラザの整備事業についてだが、昨年度の夏場に空調設備の2階部分が壊れて使えない状態が続いた。大会議室については流用で予算建てをし、12月から使用できるようにした。その他の部分について更新をしていく。全体的に塩害により室外機が錆びて漏電等の危険があり、コミュニティプラザ全体において改修を行っていくものである。ただ、地下の部分においては利用しない部分があるため利用頻度を考えながら改修を行っていく。夏場の冷房は、既存の設備を使用し、その後改修を行い、冬の暖

房に間に合わせたいと考えている。

【柳澤周治委員】

夏場は冷房が使えるのか。

【鍵田所長】

少額修繕で対応できる場所は、早急に発注手続きを行い夏場に冷房を使用できるようにする。

【柳澤周治委員】

空調が使えないと年配の方は大変である。

【佐藤博之委員】

今はどこが使えないのか。

【鍵田所長】

小会議室、リフレッシュルーム、中会議室で空調が使用できない。

【佐藤忠治会長】

市民活動室も使えないのか。

【鍵田所長】

市民活動室はGHPの系統が違うため利用できる。

【後藤紀一委員】

下水道事業の進捗状況、加入状況を地域協議会に報告していただきたい。

【君波豊副会長】

下水道事業について、平成19年当時の地域協議会での報告では1年から3年予定が早まっているということであった。今がどうなっているのかわからないため説明をして頂きたい。併せて供用開始となっているところの接続率はどうなっているのか説明を聞きたい。また、体育センターの不具合がいろいろあると聞いているが解決しているのか。

【梅木英亮委員】

体育センターはどうするのかをお聞きしたい。いつまでも使えるようにしてもらいたい。

【鍵田所長】

雨漏りがひどいと聞いて現場を確認した。体育センターの事務局長と話をし、状況を逐次報告いただき修繕を行っていくということになった。今は雨漏りのない状況が続い

ていてどこから雨漏りしているのか特定できない。今後しっかり対応していく。

【君波豊副会長】

公の施設の再配置計画が今年度で終わるが、今後の情報が入ったら知らせていただきたい。

【鍵田所長】

今年度廃止を予定している施設については、地元の皆さんの意見をお聞きして、本当に廃止できるかの判断を平成30年度の早い段階でしていかなければならない。今後の計画の策定は、まず地元の意見をしっかりと聞き、廃止可能と判断できれば廃止のリストにあげて進めていきたいと考えている。

【佐藤忠治会長】

他に質問はないか。

(発言無し)

地域協議会だよりの編集委員の選任であるが、新保委員、内藤委員、中嶋委員、西田委員と私で年3回発行していく。次回地域協議会の後に編集会議を行う。

【君波豊副会長】

かっぱ祭りの実行委員について、昨年と同様に私と山本委員で進めていくがよろしいか。

(一同了承)

【佐藤忠治会長】

東京大潟会について地域協議会委員からもぜひ参加していただきたい。

他になければ終わりにする。

【佐々木次長】

次回の予定について、第1回勉強会を5月17日(木)午後6時30分から、第2回地域協議会を5月31日(木)午後6時30分からとしたい。

(一同了承)

【君波豊副会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。